

稲 作

平成25年度 北海道米分析事業の取組状況・品質傾向について

平成25年12月
北海道米麦改良協会 業務部

1. 事業概要

- (1) 本会では JA 北海道中央会からの委託事業として、平成8年度より北海道米の食味に関する成分（精米タンパク質含有率・アミロース含有率等）の分析・データ蓄積を北海道米分析センター（岩見沢市上幌向）にて行っております。
- (2) 主に、全道広域から偏りのないサンプルを一定量、収集・分析を行い栽培技術の向上や新品種開発に寄与するデータを試験研究機関に提供するとともに、販売上必要なデータの提供についても行っております。
- (3) 事業の実施期間は平成25年度までとしておりましたが、26年度以降も2年間、事業の継続を行うこととなり、内容の詳細については業務の効率化が図られるよう見直しを行っていくこととしております。

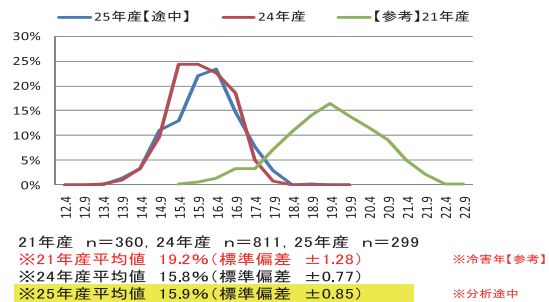


図1 「ゆめぴりか」アミロース含有率の分布状況

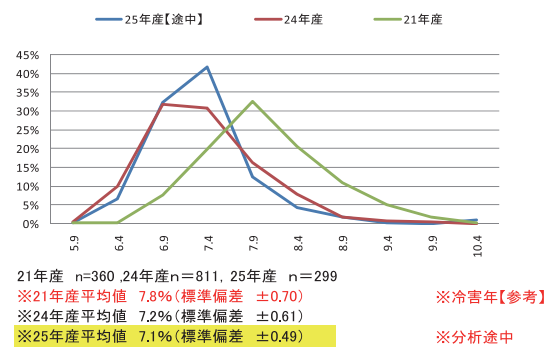


図2 「ゆめぴりか」精米タンパク質含有率の分布状況

2. 25年産米の分析状況・品質傾向について

- (1) 25年産米については全道で2,988点（うるち米100ha当たり約3点）の分析計画となっており、12月16日現在1,277点（進捗率約43%）の受付実績となっております。
- (2) 主要品種の「ゆめぴりか」「ななつぼし」の分析結果（12/16現在）は【図3】のとおりであり、精米タンパク質含有率・アミロース含有率の平均値は昨年とほぼ同様の傾向となっております。

- (3) 米の食味についてはアミロース含有率と相関があり、「ゆめぴりか」については、農業試験場で策定された「品質・食味管理目標」にアミロース含有率の数値目標が定められていますが、その25年産と24年産の分布状況は【図1】のとおりとなっております。

【考察】

・25年産の分布については24年産とほぼ同様

図3 「ゆめぴりか」「ななつぼし」分析データ平均値

【25年産】

単位：%

【参考・24年産】

	分析点数	精米タンパク質含有率平均	アミロース含有率平均	24年産タンパク平均値	24年産アミロース平均値
ななつぼし	243	7.1	19.9	7.0	18.8
ゆめぴりか	299	7.1	15.9	7.2	15.8



写真1 インフラライザーによるタンパク質含有率測定の様子

の傾向となっており、16.0%～16.4%に最も多く分布している。

- ・バラツキ（標準偏差）も24年産とほぼ同様の傾向となっている。
 - ・要因としては、25年産も全道的に登熟期の積算温度が平年以上に確保され、地域間差も小さかったことが考えられる。
 - ・24・25年産とも全てのサンプルの分析値が19.0%以下となっており、冷害年であった21年産と大きく傾向が異なっている。
- (4) また、精米タンパク質含有率も食味に大きな相関がありますが、25年産と24年産の分布状況は【図2】のとおりとなっています。

【考察】

- ・25年産「ゆめぴりか」のタンパク質含有率について、平均値は24年産並であるが、分布のピークはやや高い方にシフトした。
- ・バラツキ（標準偏差）は24年産より小さくなっており、7.0%～7.4%に最も多く分布している。
- ・要因としては、全道的に移植後の気象や登熟環境が良好となり、平年を上回る収量確保が図られたことから大半が基準内(7.4%以下)の数値となっているものの、移植前のほ場の状態が24年産より劣ったことなど

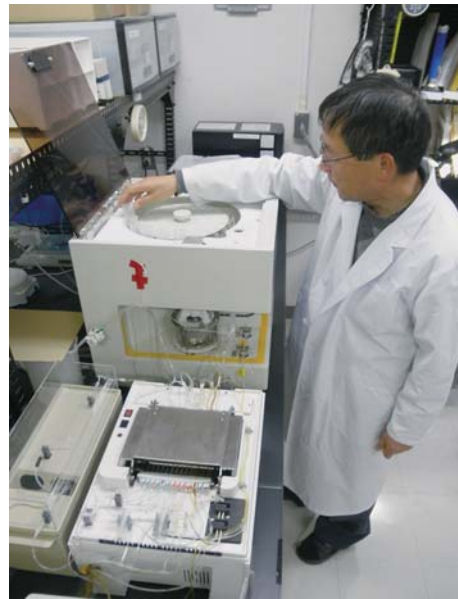


写真2 オートアナライザーによるアミロース含有率測定の様子

が影響したと考えられる。

3. 産地 JA・生産者の皆様へ

- (1) 25年産米の分析に係り、各JAの皆様へは12/15期限でサンプルの提出をお願いしておりますが、現在、4割強の提出状況となっております。
- (2) 高い事業成果をあげるためには、計画に基づくサンプル収集・分析を行いデータ蓄積・解析作業を進めていくことが必要であるため、まだ提出を完了されていない地区におかれましては早めの提出をお願い致します。
- (3) 近年の北海道米については「ゆめぴりか」「ななつぼし」が連続して、特Aランクを獲得するなど、品質・評価が向上しておりますが、今後ともこの評価を継続していくためには、引き続き、生育環境（作付地帯や土壌など）によって異なる品質状況を詳細に把握するとともに、暦年データの蓄積・検証を行い、良質・良食味米安定生産に向けた技術対応を図っていくことが必要であります。

以上